

家に誘致してはどうか。

市長 現在の利用はあくまで個人の移住を前提としており、そのためには、様々な問題解決をしていかなければならない。しかし今後そのような選択肢もあると考えている。

携帯機器を利用した情報共有体制について

議員 市からの情報提供は、緊急避難情報等多く利用されているが、市民から発信された携帯カメラ等による情報の受入れ体制についてはどうか。

市長 広報紙等を通じて市民へ情報の積極的な提供をお願いしているが、今後先進事例を参考に研究したい。

議員 漏水、危険箇所等の瞬時の現状把握等で期待できると考えるが、どうか。

上下水道部長 漏水の現状把握については主に市民からの電話連絡をいただいているのみが現状であり、早急な復旧を考えれば非常に

役に立つと考えている。また、GPSを利用すれば地図上での位置も瞬時に把握できるので今後先進事例を参考にしたい。

危機管理部長 去年の災害時、職員が現場へ出向いて写真を撮り、転送させた時に、それが非常に役立つことが分かった。現場の情報を迅速に、正確に把握した次の一手を打つ事ができるので、非常に有効な手段である。

「カブニ」くんの情報発信について

議員 「カブニ」くんを今以上に宣伝すべきと考えるが、どうか。

教育長 現在、「カブニ」くんの着ぐるみを博物館行先、各種団体等に貸し出ししている。また昨年度には新たにカブトガニ博物館オリジナルマグカップ等を製作販売し、キャラクターの周知とカブトガニのPRを行った。今後も引き続き、着

ぐるみやオリジナルグッズの効果的な活用等により、情報を発信していく。

仁科文秀議員



子ども・子育て支援新制度への対応について

議員 市町村が主体となつて実施されるこの新制度については、内容が複雑であり、保護者や市民にもまだその内容について知らされていないが、実施までには半年しかない状況である。今後のスケジュールをたずねる。

市長 まず笠岡市子ども・子育て支援事業計画を来年3月までに策定するべく笠岡市子ども・子育て推進会

議で検討している。また、条例として定める事項については、12月定例会に上程するべく地域型保育事業の認可基準や放課後児童クラブの設備運営基準等の準備を進めている。

子どもたちの安全・安心について

議員 子どもを狙った事件が全国的に発生している。岡山県警では子どもを犯罪から守るための対策をまとめた保護者向けの啓発チラシをつくり、配布するなど具体的な動きが既に始まっているが、本市の対策をたずねる。

教育長 自ら危険を予測し、行動できるよう発達段階に応じた指導の徹底を図ることや、保護者・地域・警察等の関係機関との連携や防犯ボランティアによるパトロール等の強化について再度協力を要請するよう各学校、幼稚園に指示している。先月の校長会におい

ても登下校時における不審者対応についての指導の徹底を再度指示したところであり、今後も児童・生徒の安全確保に万全を期すよう取り組んでいく。

文化の振興について

議員 本市出身、あるいは本市と関わりがある素晴らしい歴史家・文化人が何人もいる。このような人達の紹介は観光や特色ある農水産物と同じく本市をアピールし、本市を訪れるリピーターを生む要因にもなる。今後文化を大切にし、育てるまち笠岡をさらに推進し、発信していくことは考えられないか。

市長 竹喬美術館による共同企画展や共同巡回展のような他県との交流活動の推進や木山捷平文学選奨、短編小説賞の奨励、森田思軒の講演会の周知等をこれまで行ってきたが、これらのさらなる充実を目指すとともに、動画によるメディア